第１回北陸圏広域地方計画有識者懇談会　議事概要

日時：平成２７年２月１７日（火）１３：００～１５：３０
場所：石川県立音楽堂　交流ホール（地下１階）

１．開　会

２．挨　拶

（局長）

・皆様方にはお忙しいところありがとうございます。
・平成２１年８月に現行の北陸圏広域地方計画を策定し、概ね１０年間における北陸圏の国土の形成に関する基本の姿を示し、その目標像達成を目指して広域連携プロジェクトを推進してきました。当計画の見直しを行うに当たり、有識者の皆さまから意見を頂きたく本懇談会を開催しました。
・広域地方計画策定から５年半が経過し、人口減少や少子高齢化の進展、東日本大震災が発生し首都直下地震や南海トラフ等の災害リスクが高まるなど社会経済情勢が変化してきています。
・このような社会経済情勢の変化や減災対策等の必要性が高まる中で、太平洋側と日本海側の２面を活用した国土軸を形成していくことが示される中で、北陸の果たす役割が大きくなっています。
・昨年度来、国土強靭化計画や国土のグランドデザイン２０５０、まち・ひと・しごと創生の取組も本格化し、地方の時代になっていきています。
・北陸圏に関しては、今年の３月１４日に北陸新幹線の開業といった大きな話題もあり、注目を集めています。
・このような情勢変化を受けて、全国計画の策定を追いかけるように、北陸圏広域地方計画を見直していく予定です。
・今年度は、しっかりとした土台となる骨子をまとめ、来年度に計画として仕上げていく予定です。
・現行の計画と同様、今後概ね１０年間における持続的な発展に資する計画を策定したいと考えています。希望がもてる計画を策定するために各界を代表する皆様に忌憚のないご意見、アドバイスを頂きたく存じます。
・本日はよろしくお願いいたします。

３．議　事

１）北陸圏広域地方計画有識者懇談会規約について

・委員より規約について承認された。本日をもって本規約を施行する。

２）座長の選出

■座長選出・挨拶

（委員）

・北陸３県の知見があり広域的見地から公平に進行頂ける山崎金沢大学長にお願いしたい。

（委員一同）

・異議なし

（座長）

・座長について承認した。

・国土強靱化、まち・ひと・しごと創生本部が本格化する中、地方の時代を迎えている。

・このような動きが掛け声だけに終わらないよう、実質的なものにしたい。

・良いところばかりに目が行くが、能登半島の過疎化や人口流出等課題を抱えている。

・このような課題を克服しながら、人口流出への歯止め、人口増加のための産業創成や雇用促進等に資する､10年先の明るい未来を具体化するための良い計画を作りたい。

■副座長選出

（座長）

・堀田委員を副座長に選出する。

■本会の公開について

（事務局）

・規約第５条第２項に基づき公開としたい。

（委員一同）

・異議なし

３）北陸圏広域地方計画にかかる説明

①新たな「北陸圏広域地方計画」策定スケジュールについて

（事務局）

・国土形成計画の全国計画は国土審議会計画部会で審議されており、北陸圏広域地方計画懇談会委員である田村委員が国土審議会計画部会の委員に就任されている。

・全国計画の中間とりまとめは既に公表、夏には閣議決定を予定しており、北陸圏広域地方計画は全国計画を追いかける形で実施していく。

・来年度内には大臣決定を予定、それまでに懇談会開催を３回予定している。

②新たな「北陸圏広域地方計画」について

・資料３－１は、広域地方計画見直しのポイントをまとめたものである。

・資料４―１は、概要版にて見直しの方向について概要を説明する。

・７つの課題と４つの目指すべき方向、２つの将来像、戦略目標を設定した。

４）意見交換

（委員）

・日本海国土軸は全国計画で取り上げても、北陸圏で取り上げる意義はどうなのか。首

都圏や中部圏にも近く、産業のレベルも高い。

・北陸圏で北海道から九州まで広域をイメージする日本海という表現を変えたほうがいい。

２面活用型、北陸で太平洋側という言葉を使う必要があるか。

・北陸圏の暮らしやすさというのは個性ではなく、高い生活環境整備の水準を示すものであり、北陸圏の個性を示すものではない。

・北陸圏では雪の克服について、もっと強調して記載されるべきである。

・北陸圏では２０～３０㎝の降雪があり、首都圏居住の住民からすれば、「北陸は暮らしやすいかもしれないが、雪があるから」と敬遠されていることを認識する必要がある。

（座長）

・北陸圏では、降雪が多い地域は点在しているのであって、金沢等では降雪はほとんど見られない。北陸圏に居住する人から見れば、２０～３０㎝ の降雪などは大したものとは考えていないと思われる。

（委員）

・国土強靭化においてエネルギーの安全保障も大きな課題である。

・東日本大震災でエネルギーの偏在が露呈している。

・今後はエネルギー供給源の最適配置とネットワーク化が課題となる。

・こういった観点から、日本海沿岸に幹線パイプラインを整備していくことが必要である。

・北陸圏は関西圏や中部圏へのエネルギー供給という重要な役割を担っている。

・東シベリアの天然ガスの埋蔵量は多い。ロシアからの天然ガスの供給、我が国への輸入が本格化すれば需給バランスが変わる。日本での受け側を考えると北陸圏の重要性は高まるものであり、このことについても入れていただきたい。

・北極海航路については、物流面でのポジティブな面と地球環境問題等ネガティブな面もあるので、ネガティブな側面も触れておく必要がある。

・欧州と東アジアをつなぐ物流ルートには、シベリア鉄道、新シルクロード、南回りの海運、パナマ運河経由のルート等複数あり、航路間での競争が活発化してきている。

・このため、シベリア鉄道では事務処理等の効率化を図り柔軟化してきている。日本海側での物流の方向性についても入れていただきたい。

・太平洋側の災害リスクを補完するという日本海側という位置づけの記載は見られるが、北陸圏からの地理的距離を考慮すると、ロシアではウクライナ問題もあり東方にシフトしてきているなど環日本海側諸国の対応も変化してきているなど、環日本海側諸国との経済連携強化も見据えていくべきと考える。

（委員）

・地域経済を考えると地域外から稼いでくるベーシック産業と、地域内需要を相手にす

るノンベーシック産業がある。

・これまでは、ベーシック産業強化のための企業誘致等行われてきたが、現在は、ノンベーシックを強くしたらベーシック産業が来るという流れになっている。

・コミュニティビジネスやNPOの設立推進等を全国に先駆けて推進するといったエッジの効いた提案を記載していく方がよい。

・かつては、日本人の寿命は短かったが、平均寿命が延びた日本では、定年後、２０年以上暮らすことになる。余生をどう暮らすかという視点から地域づくりを考えると、地域の魅力、活力を違った形で考えることができるのではないか。

・産業の育成については、今までの中国等での低コスト生産の発想を超えて、高度な技術やデザイン力のある欧州の企業との連携を増やしていく視点もあると考える。その際、工業試験場等を活用して連携を取っていくことも大事だと考える。

・商店街について記載が少なく感じる。家賃を売上にスライドさせる「新津モデル」のような空き店舗・空き家対策を社会実験としてやっていくことも大切ではないだろうか。

・北陸には隠れた企業が数多くある。ドイツでは、そのような隠れた存在で輝くものを「hidden champion」と呼んでアピールしている。北陸全体でも全体としてアピールする方法を考え、それがビジネスにつながるような支援策を考えてもよいのではないだろうか。

（事務局）

・本日、各委員から頂いた意見については、３月２５日開催予定の協議会にて反映を検討し、報告していくつもりである。

（座長）

・委員各位も十分な認識のない中での意見もあるかと思うので、事務局の方では、反論すべきところは反論し、ここで解決できるものは解決するようにしてほしい。

（委員）

・１０年間の大きな変化へ対応するというのもあるが、そのような大きな変化をチャンスとして利用していくという視点も大事である。

・北陸新幹線も開業当初は、新幹線自体に乗りたくてくる人が来なくなり、利用者が減るようでは問題である。

・東京オリンピック・パラリンピックに関しては、市町村が地元のＰＲをしている。誘致合戦がない練習場の誘致に取り組む自治体もある。

・東京オリンピック・パラリンピックでは、面白い魅力を海外のメディアが勝手に探していくのであるから、東京オリンピック・パラリンピックをショーケースと認識して北陸圏を売り込んでいくことが必要である。

・目指すべき方向に記載されている、「少子化の歯止め」をかけるのは難しいのではないか。北陸圏のように子育て施策が充実していても出生率は下がっている現状がある。

出生率の下り曲線を緩やかにするくらいが現実的な目標になるのではないか。目指すべき方向であるというのならいいかもしれないが。

・能登半島の地震の時の被害軽減の時に効果を発揮した地域コミュニティを活かして、災害時の危機管理に活かす視点も必要である。

（事務局）

・少子化の歯止めに関する考え方は、委員指摘の通り認識しており、少子化の歯止めは目標とし、このことによって出生率の低下を緩和することになると考えている。

（委員）

・全体としてよくまとまっている。細かいところは書き込んだ方が良いところがある。

・子育て環境は良いのに、なぜ人口流出が進むのか。若年層のＵＩＪターンが、なぜ進まないのかを考えると、やはり働き場がないことによると認識する。

・世界に発信できるシェアトップの企業は多数あるが、金沢市や富山市の周辺に集中しており、能登半島等にはない。

・確かに、高速交通の発展により地域格差は減っているが、金沢市や富山市の周辺にあるような産業を能登半島に誘致できるかを考えると、やはり難しい。

・能登半島では、食、自然、温泉等を活かした観光や水産業を中心とした産業振興が軸になる。企業誘致がきびしいなら、観光産業を誘致して、それをどうやって育てるかを示すことが重要である。

・高速道路はかなり整備されてきたのに加え、北陸新幹線も開通間近、３つの空港、重要な港湾も北陸圏にはある。

・但し、小松空港等では航空路線は限られるため、国際線等の充実が不可欠である。

・また、北陸圏では、空港や港湾までのアクセスが弱いので、強化すべきである。

・北陸圏の港湾は主に物流のみであるが、近年クルーズ船等の就航もあるため、人流についても、考えていくべきである。

（委員）

・地方自治体は市民と近いところに位置しているため、市民に如何に説明するかが重要であり、首長などは「説得責任」という言葉を使っている。

・市民感覚は、右肩上がりの経済成長時代の頃の間隔から抜け切れていない。

・昨年度、増田レポートで人口減少による自治体消滅への危機感が示され、地方自治体は大変なショックを受けた。

・市民意識もあるが、先ずは県や市町村職員の意識を変えていく必要があり、このためには、少しショッキングな表現を使うべきである。

・県の中では、市町村間でも人口増減、社会増減に違いがある。富山市などは社会増で他は減の状況である。今は、全ての地域が同じような役割を果たす時ではなく、それぞれの地域で果たす役割も違う。国、県、市ががんばれば自分のところはなんとかなるというものでもない。「どこよりも、暮らしたい、学びたい、働きたい、住み続け

たい」という将来の姿も分かるが、地域別でここは農業、ここは漁業でがんばるといった地域別にそれぞれ何にがんばるのか、また、ここは住まない地域にするといったようなことを具体的に見えてくるよう記載をしていく必要があるのではないか。

・富山では、コンパクトシティ施策を進めるに当たり、住んだ方がいいですよ、という地域等を示しているが、北陸圏でも小さな拠点あるいは地域の果たすべき役割といったことを見える形で描くと、それぞれの地域の役割が見えてくるのではないか。

（委員）

・３月１４日に北陸新幹線は開業予定で、地元においては大きなイベントになっている。

・太平洋・日本海２面活用型国土形成を考えると、２０２３年までに敦賀まで延伸予定の北陸新幹線を早く大阪まで伸ばすことで、東海道新幹線と北陸新幹線の環状ルート化を果たす必要がある。

・これが実現すれば、リダンダンシーの確保等多様な機能が芽生えてくるのであるから、大阪までの北陸新幹線の延伸について、もっと強く意識すべきである。

・２０世紀は開発の時代であり、たくさんの地域開発をしてきたが、今後はそれら開発された資源・施設等の維持・活用が重要である。

・空港間、港湾－空港－駅等交通結節点間のアクセスを考えていくべきであり、この際、主要なアクセス路（主線）とそれを支える支線をどう構築し活用していくかが課題となっている。

・高齢化の中で健康社会をどう築くかも大切で、このためには、車社会から脱却し、歩道を整備・充実して、人にやさしい道づくりを考えるべきである。

（委員）

・富山や石川では車いすで移動している人が少ない。一人で出歩きやすい社会をもっと充実すべきであり、スイスなどでは、２階以上の建物ではエレベーターが整備されている、そこまでいかないまでもエレベーターの整備を推進することが必要ではないか。

・富山型ディサービスを全国に先駆けて取り組み、全国へ発信してきた。

・アフリカでは、子ども一人を育てるのに村総出で取り組む。子どもを育てるのに、地域みんなで育てる意識づけも必要ではないか。

・特別養護老人ホームが少ないため、国土交通省の事業でケアサービス付高齢者住宅を整備した。入居する市民からは誤解もあり、介護ケアが付いていると思う人も多く、実際には外部サービスを受けたり、相談窓口があったりするだけである。もう少し説明をしっかりすべきではないか。また、１５～１８万円が基本料金でサービス料がかかる仕組みなので一般人は入りにくい。

・しかも高齢者が施設に入ると、外出しなくなり、まちで高齢者を見かけなくなった。

・道の駅等を作るのはいいことだが、７億円かかると聞いている。高齢者のコミュニティ拠点ともなるようなまちの駅や村の駅というものであれば、１，０００万円前後で作れるので、そういうものをもっと増やすべきではないか。能登半島においても、ま

ちの駅などの拠点を作っていけば住みやすい場所になっていくと思う。

・東京では３０％、大阪では５０％という状況から見ると、富山県等は町内会の加入率が高い。

・日本のトップの居住環境のある北陸は幸せ度が高い。１０年後も住んでいる人が幸せと思うまちづくりを進めるべきである。

（委員）

・私の役割は観光について語るということであろうと思うので、国内外からの観光客誘致について意見を述べる。

・ものづくりの国として日本は成長してきた。不況が立て続けに起こっている。サブプライム問題や東日本大震災等もあり、日本はバブル崩壊後に失われた２０年を経験した。

・日本の企業は国内から労務単価が安い海外へ出ている。

・人口減少、団塊の世代のリタイヤ等日本の閉塞感を開放する機会に、東京オリンピック・パラリンピックはあると思う。

・これを契機として、おもてなし力を生かした産業を活かしたビジネスを形成し、ものづくりに加えていくべきである。

・北陸新幹線開通で、首都圏から２時間～２時間半で富山・金沢に来られるようになる。北陸新幹線によって、３５，０００席／日が運ばれるようになる、金沢の１２０日は１００％となっている予約の状況だが、満席でないこともある。このことを考慮し整備効果を考えると、関西圏や中部圏から北陸圏に来訪する人は１３．５％、首都圏は５．５％であったが、関西圏等と同様の来訪率になると首都圏４，１００万で８％が増えるので、３２０万人が増加、首都圏からの来訪者は合計で１，０００万人来ることになるため、高い経済効果が期待できる。

・また、海外からの観光客１，０００万人を超えた中で、今後はインバウンドに着目すべきである。フランスの８，０００万人というのもあるが、先ずは、観光庁が目標とする２０３０年、４，０００万人を目指していく必要がある。

・日本には、海外からの観光客が訪れる京都を中心としたゴールデンルートが形成されているがそれに続くプラチナルートとして、日本海側のルートを形成していくべきである。

・観光とは、「時間を消費する物語を販売するもの」と私どもでは表現している。日本の原風景が残る北陸圏の資源を活かして、ほかの観光地にはない癒しや健康、体験教育等を活かした物語を構築していく必要がある。北陸は雪が多いというイメージがあるので、雪をうまくエリアを表現して頂きたいと思っている。

・北陸新幹線等高速交通幹線の整備に伴って二次交通の整備もまた重要である。

（委員）

・具体性がないという意見あったが、具体性を持たせるのは難しいかもしれないが、わ

かりやすさは必要であると思う。

・そういう意味では、将来像の一つ目の「どこよりも、暮らしたい、学びたい、働きたい、住み続けたい」は分かりにくい、北陸は日本のブータンのようなまちというように、住んでいる方にとって「日本一幸せな暮らしのあるまち」を将来像として目指すとしたらどうだろうか。

・港湾・空港に関しては、現状が記載されているが、今後将来に向けて海外とどう向き合っていくのかについても記載してほしい。

（委員）

・ものづくりの観点から意見を申し述べたい。

・昨今、電気自動車や３Ｄプリンターが発展、普及しようとしているが、これが本格化すると、北陸圏のものづくり産業は打撃を受ける。

・北陸圏のものづくり産業の特色を維持するためには、事業の新陳代謝を促進、活性化させ、既存の中核産業で付加価値力を作ることが重要である。

・起業率が低いといわれる北陸圏において、人材育成はもちろんだが、地域として起業できる、しやすい環境を整備していくことが重要である。

・北陸圏としての観光については、戦略的なところまで踏み込んで具体的に記載すべきである。

・自然景観や都市景観で日本一になるようなものを目指すことが大切で、それら景観は放置すれば荒れてしまう。能動的、主体的に景観を高めていくという点も入れるべきである。

（委員）

・少子化への歯止めについては、北陸としてどうしていくのか、一番の課題として捉え記載すべきである。
現に居住している住民の満足度は高いが、東京など圏域外から移住を考えている人は、雪などの否定的な意見が多い。

・先ずは、北陸新幹線を大阪まで延伸し、時間距離感を近くするところから始めるべきである。

・小松空港はあるが東京と点でのつながりとしかイメージしかない。もっと新幹線整備などを活用して線でのつながりとして考えるべきである。

・北陸圏の中を見ると、工業の特色のある地域や観光の特色のある地域があるので、北陸全体をとらえて、活性化の方向を記載すべきではないか。
例えば小松市はサプライヤーが集結しているもので、必然的にコマツは工場を立地した。お隣の加賀市は温泉情緒のある観光のまちである。

・本社機能の移転の話では、コマツの本社機能を担う従業員は７００名でしかない。そのため、本社機能を移転したとしても、その程度の人の動きしか生み出されないということも考えられる。粟津工場では従業員３，０００名、このうち５００名以上は研

究開発部門で全国から来ている。本社機能だけに囚われるべきではない。研修センターをコマツでは整備したが、毎年２万７，０００人が来訪する、このことの方が地域への経済波及効果が大きい。

（委員）

・太平洋日本海２面活用型国土はその通りであると思う。

・北陸圏の中でも３県で温度差があると思う。富山と石川はつながりが大きいが、石川と福井の間はつながりが小さい。こういうことを考えると、北陸新幹線開通と合わせて二次交通の充実を図り、圏域内の交流を促進することも記載すべきである。

・産業では、日本のものづくりが大きな転換点を迎えている。

・過度な成長と利便性の追求から、東日本大震災以降、価値観の高度化が進んでおり、欧州の価値観との融合が求められつつあるのではないか。東北の南部鉄が欧州でなぜ受けるのかを考えるべきである。そういった意味では、北陸圏の石川、福井、富山に２０以上ある伝統産業を、新たな産業の息吹として、ハイテク化、グローバル化していく必要があることを記載すべきではないか。

・人材育成は国家の一元管理で取り組むべきものではなく、地方が独自に取り組むべきものである。

・北陸圏の値打ちを高めることを考えれば、「どこよりも、暮らせる、学べる、働くことのできる、住み続けることのできる」といった、自律的な展開イメージで記載すべきである。

（委員）

・能登半島の最先端に位置する集落居住者８７人が株主となり、株式会社を立ち上げた。

・当該集落は１６０世帯から９０世帯に減少し、学校等も統廃合された限界集落である。

・居住者皆で地域を支える取り組みをしており、働く環境があり、高齢者が元気になった。

・若い人が少ない状況であるが、Ｉターンで若い人が入ってきている。

・北陸新幹線を契機としてＩターン、Ｕターンを推進したい。

・かつて栽培され、栽培が途絶えていた大豆を再度栽培し豆腐作りを実施しており、また道の駅に認定された店舗で販売しているが、全国３位に表彰された。

・珠洲の中心地までは若年層は来るが、職業安定所でも求人しているが、なかなか能登半島の先端までは来てくれない。

・今後、若年層の雇用のためには、どれだけ、地域の魅力等を宣伝していくかが課題と認識している。

（委員）

・伝統産業や食のブランド化が重要である。

・人口減少や空き家が問題となる中で、居住エリアのコンパクト化、人が住むエリアと働くエリア、自然のあるエリア、農林水産業を育むエリアと棲み分けという５０年先

を見た考えも重要である。

・競争力については食産業とハイテク産業だけでなく、伝統産業を活用した産業競争力を高めていくことが必要である

・ハブとなる新幹線駅や空港等からの１時間圏を調べ、「見える化」しておくことも大切である。そのような調査を踏まえ、整備計画の整備促進に関するデータを「見える化」してほしい。

・どのインフラを今後長寿命化対策やリノベーションしていくのか、地方都市においてはいかにお金をかけないで運営していくのかについても言及すべきである。

（委員）

・観光という面では、高山市の外国人観光客が増えた。そのような観光客は、いわゆる観光名所ではなく、日常の暮らしを見たいと言っているようである。

・生活を観光に結びつけることが大切である。

・「どこよりも、暮らしたい、学びたい、働きたい、住み続けたい」については、前半を短縮して「～住み続けたい、死に甲斐のある北陸」としてはどうか。

・それと、今後１０年の方向性として、「ハードからハートへ」というものも入れてはどうか。

（委員）

・東京をスタンダードと捉えるのではなく、北陸の強みである「産業と地域コミュニティが揃っていること」などを強調すべきである。

・田舎ツーリズムの対象となる原風景は、北陸圏の平野部には工場等が立地し、残っていないが、能登半島には残っており、田舎ツーリズムの対象となる原風景を残していくことも強調して頂きたい。

・高等教育に関しても、ユニークな学術的な大学、個性のあるというところで打ち出すべきではないか。

（委員）

・北陸地域は距離的に、福井から富山、さらには能登半島もあり、細長い圏域であり、地理的にはコンパクト化は難しい。

・このような地域で暮らしやすさや都市的な暮らしの利便性を確保するためには、通信技術の強化、大都市圏と同じネットワーク環境の整備が重要である。

・買い物もインターネット利用が多くなっており、買物難民の高齢者も利用しやすくできるのではないか。ただし、そのためには物流システムの広域化・効率化を確立することが必要となる。

（委員）

・伝統産業として金箔産業はじめ北陸の個性的な「伝統力」を強調して記載すべきと考える。

・食のブランド化では、港湾・空港の利活用を想定した輸出も意識して欲しい。

・北陸新幹線の開通で石川県までが東京経済圏の影響が強く出てくると考える。このことによって、企業の撤退やレンタルオフィスのような新業態の進出も予想される。ビジネス環境の変化を活かした施策も重要であると考える。

（座長）

・インフラ整備に関しては、中部縦貫道の整備、新幹線の延伸等について、福井の人はもっと主張すべきである。

・北陸圏を考えると、首都圏や関西圏もあるが、東海とのつながりも強い。石川から名古屋に新幹線があってもいいのではないか、そのような夢のある大きな構想提案もあると良いのではないか。

・観光については、北陸新幹線だけでなく、航路であれ、韓国からの旅客船であれ、様々な交通機関を使った観光ツアールートを企画提案すべきであり、どこからどれくらいの人を誘客するのか具体的な提案を入れていくべきである。

・能登半島等を行き来すると、森林が多いことが分かる。もちろん営林環境が厳しいことも理解した上で、何か新しい活用はできないのか、森林のサスティナビリティの観点から、グリーンエネルギー、バイオマスということも言及すべきである。

・金沢大学は能登半島にキャンパスを持ち、里山マイスターといった制度を持っている。過疎地域に高等教育機関を設けるようにする視点も重要ではないか。

・水産業についても、待ちの漁業だけでなく、近畿大学のような自ら育てる漁業の視点で付加価値をつけていくことなど、記載を充実すべきである。

・能登半島の自治体の中では出産のための医療環境も整っていない市町村もあると聞く。セーフティネットという視点からも提案すべきかもしれない。

・高齢者や女性の労働力としての期待もあるが、今後は外国人労働者を入れていくことも考えていくべきある。一緒に農業をやる等を考えてもいいのではないか。

・計画全体として、前向きで読んでいてわくわくするような面白い具体性のある計画にしてほしい。

４．その他

・規約に基づき資料は公開する。

・議事録は内容を確認して頂いた上で公開を予定する。

５．閉　会

（運輸局長）

・いろんな分野から意見をいただき、重い宿題を頂いたと認識している。

・スピード感を持って進めていきたいので、今後ともご協力をお願いしたい。

（以上）